

# 諏訪湖クラブニュース

NO. 40 2024年7月

## もくじ

- 所感 沖野外輝夫
- 諏訪湖クラブ令和6年度通常総会報告
- カイコと日本と私たち-歴史と研究の視点から- 伴野 豊
- 諏訪湖に沈められたといわれている武田信玄の石棺
- 諏訪湖トライアスロン・ボランティアに参加して
- セントルイス姉妹都市締結50周年記念モニュメント設置
- 林正敏氏所蔵野鳥標本の展示会開催
- 冊子「諏訪湖チャリティー・ウォーク記念誌」作成
- 諏訪湖クラブ新会員の紹介
- 理事会議事録

## 所 感

会長 沖野外輝夫

新型コロナウイルス騒動で開催が一年遅れ、開催された東京オリンピックも大きな支障もなく終了、関係者でもないのにやれやれと一息ついたのが二年前である。次はパリ、まだ先のことと思っていたらこの7月に開催、代表選手の選考が連日新聞紙面を飾っている。月日の経つ早さに驚かされているのは私だけではないようだ。

パンデミックという耳慣れない言葉が世界中のニュースで使われ、得体のしれない病気が世界に蔓延した。幸いにして治療薬が開発され、パンデミックの対応は解除されたが、病気自体が終息したわけではない。その証拠に私自身が、今年5月10日前後に、夫婦そろってかかりつけのお医者さんから新型コロナ陽性の通告を受け、5日間の自宅療養と治療薬の服用を告げられ、それに服することになった。

幸いにして、治療薬の効果か、二人共にいたって軽症で、5日間の自宅療養後には回復、後遺症もなく、平常に戻ることができた。治療薬は「ラゲブリオ」という名称で、やや大きめのカプセルに200mg、顆粒状態で封入されていて、一日、朝と夜の2回4カプセル、5日間の服用である。カプセルがやや大きめで飲みにくいとの評もあるようだが、私自身は飲みにくさを感じなかった。それよりも1回に800mgという量に驚いたが、軽症と短期間の治療で済んだことを治療薬開発の関係者に陰ながら感謝しているところである。

これがパンデミック初期での感染であったならば、と考えると寒気を覚えるが、現状のコロナウイルスの蔓延状態が改善したわけではないのでは、という疑問が残った。その理由は、感染者二人共にしばしば人ごみに出かける人間でもなく、来訪者が多い家庭でもなく、ウイルス菌に触れる可能性が極めて低い環境下に生活していることにある。現在は普通の風邪ひきと同じ扱いとなっているので、感染者の状況は分からないが、軽症者であれば平常の生活行動をとっているに違いない。となれば、感染経路は広く広がっている可能性は高い。パンデミックの時ほどではないとしても普通の生活でも衛生面に気配りする習慣を忘れないようにしなければ、反省しなおしているところである。皆様も、気を付けてお過ごしください。



令和6年度 諏訪湖クラブ通常総会

令和6年(2024年)6月2日(日)  
諏訪市駅前テラス  
すわっチャオ会議室1・2

令和6年度 諏訪湖クラブ通常総会 次第

1. 開会 15:00
2. 会長挨拶 沖野外輝夫
3. 総会成立宣言 出席者20名 委任状 15名 正会員77名
4. 議事
  - (1) 第1号議案 令和5年度 事業報告 …承認
  - (2) 第2号議案 令和5年度 会計報告  
〈会計監査報告〉 …承認
  - (3) 第3号議案 令和6年度 事業計画(案) …承認
  - (4) 第4号議案 令和6年度 予算(案) …承認
  - (5) その他
5. 議長退任
6. 記念講演 16:05~16:55  
演題 「カイコと日本と私たち」  
講師 農学博士 九州大学名誉教授  
駒ヶ根シルクミュージアム館長 伴野 豊さん
7. 閉会 17:00  
懇親会 雫石にて

諏訪湖クラブ会則

- 第19条 総会の招集については開催の2週間前までに、日時、場所および会議に付議すべき事項を適当な方法によって会員に通知しなければならない。
- 第20条 総会は正会員の5分1以上の出席がなければ成立しない。ただし総会に出席できない正会員で第19条によって通知された事項の議決を、他の出席会員に委任した者及び書面によって議決に参加した者は出席者とみなす。
- 第21条 総会の議決は出席者の過半数の同意による。可否同数の時は、議長の決するところによる。

**【第1号議案】**

**令和5年度諏訪湖クラブの活動記録 主に諏訪湖創生ビジョン関連**

**◆令和5年4月28日（金） 諏訪地域振興局企画振興課**

しゅんせつ課題ワーキング第1回会議（井上、高木、山村、宮坂、八幡）  
・これまでの水質浄化のためのしゅんせつの経過と新たな課題



ワーキングの様子

**◆令和5年5月9日（火） 諏訪地域振興局企画振興課**

令和5年度元気づくり支援金承認受け、本申請提出

全体 834,000円 元気づくり支援金 667,000円

冊子「諏訪湖の水生植物」沖野外輝夫 A4カラー32ページ、6,000冊

冊子「うんち君の旅」チーフ；田代幸雄 B5カラー16ページ、5,000冊

冊子「諏訪湖の治水に繋がる釜口水門」チーフ；八幡義雄 A4サイズ28ページ、6,000冊

紙芝居「オオワシと鳥さち翁さん」チーフ；林正敏 B4サイズ12ページ、120部

**◆令和5年5月25日（木） 諏訪地域振興局企画振興課**

しゅんせつ課題ワーキング第2回会議（井上、高木、八幡、山村）

- ・しゅんせつの各種工法
- ・諏訪湖での国民スポーツ大会；令和10年開催

**◆令和5年5月29日（月）午前11時～ 茅野市民館コンサートホール**

美しい環境づくり諏訪地域推進会議総会（沖野）

基調講演

演題：「地域みんなが豊かになる本当の脱炭素のやり方を考えよう」～住まいと地域を暖める断熱・省エネと再エネの上手な活かし方～

講師：東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 准教授 前 真之 氏

**◆令和5年6月4日（日）**

午前 全国一斉水質調査 天竜川他（沖野、宮原、高木、田代）

午後2時30分～ 諏訪市駅前交流テラスすわチャオ会議室3

諏訪湖クラブ定期総会開催

- ・出席者17名、委任状36名 正会員82名
- ・第1号～第2号 令和4年度関係 …承認
- ・第3号～第5号 令和5年度関係 …承認

記念講演 長崎政直専務理事「フィリピンでの活動」

沖野外輝夫会長「なぜ諏訪にくることになったか」



長野日報新聞掲載記事

**◆令和5年6月29日（木） 諏訪地域振興局企画振興課**

しゅんせつ課題ワーキング第3回会議（沖野、井上、高木、宮坂）

- ・諏訪湖の底泥の環境変化

**◆令和5年7月6日～8日 諏訪湖湖上**

手作業によるヒシの刈り取り

- ・参加 延べ147名（沖野、金子）
- ・水草の学習会と手長エビの放流体験



ヒシ刈り取りの様子

◆令和5年7月12日(水) 諏訪中学校

3学年の総合的な学習を実施

講師 沖野外輝夫先生

諏訪湖について学ぶ

◆令和5年7月28日(金) 午後1時30分～ 諏訪市役所2階 201号室

第1回諏訪市環境審議会 宮原裕一副会長

第二次諏訪市環境基本計画における市施策に対する 環境推進会議委員意見への対応について

◆令和5年8月1日(火) 全国下水道展 札幌市札幌ドーム (田代、高木、井上ズームにて参加)

事例発表「市民科学」 「うんち君の旅」水はどこから来て、どこへ行くの？



下水道システムを説明



最初沈殿池にて



マンホールを覗き込む児童

◆令和5年8月4日(金) 諏訪湖観光汽船船乗り場

しゅんせつ課題ワーキング第4回会議 (井上、高木、宮坂、八幡)

・しゅんせつ作業 現地確認 初島付近を選定



ワーキングの様子

◆令和5年9月12日(火) 10時から 下諏訪町役場 庁舎2階

町長応接室

紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」贈呈式

◆令和5年9月29日(金) 午後1時～ 諏訪中学校体育館

第27回「梶の樹祭」で総合的な学習の成果を発表 (沖野、宮原、八幡)

発表された五つの講座；(1)ゼロカーボンシティ講座 (2)諏訪湖講座 (3)報道講座 (4)温泉講座 (5)諏訪湖マラソン講座

諏訪湖はきれいだと思いますかとの問いかけには汚いと思うと人がかなりおられました。しかし、諏訪湖の浄化の取り組みにより、諏訪湖の水は改善方向にあることを報告。



諏訪湖についての発表

◆令和5年10月1日(日) 午後1時～4時 「ホテル紅や」ルビーホール

「諏訪湖の日のフォーラム2023」開催 (沖野、宮原、高木、八幡)

- ・諏訪湖創生ビジョンの取り組み紹介
- ・基調講演 村木風海 炭素回収技術研究機構機構長
- ・食のサイエンスショー

“諏訪湖を美味しく考えよう” とういんくる星美さん

- ・講演；諏訪湖環境研究センター初代所長内定 高村典子さん  
「生き物の多様性が湖を元気にする」



ロビーに紙芝居とオオワシのパネルを展示

◆令和5年11月18日(土) 岡谷市諏訪湖ハイッ

「第9回川ごみサミット in 諏訪湖」 (沖野、宮原)

参加者 約100名 湖浄連 小口智徳(岡谷市環境課)

マイクロプラスチック(人工芝など)は魚が消化できなくなり餌をとれないため栄養失調に

◆令和6年1月11日(木) 諏訪農村農業支援センター

漁業振興ワーキング第1回会議 (沖野、宮原、井上、高木、八幡、山村)

- ・ 諏訪湖における漁業の現状と課題の整理
- ・ 魚介類の生息・再生産機能を有する修復手法及び手順の検討
- ・ 漁獲量回復に向け導入可能な技術の検討

◆令和6年1月22日(月) 諏訪地域振興局企画振興課

諏訪湖の水草対策ワーキング第1回会議 (沖野、宮原、井上、高木、山村、八幡)

講演; 東京大学大学院吉田丈人教授

演題; ヒシの除去手法

◆令和6年2月6日(火) 9時00分~ 岡谷市教育長室

冊子の贈呈式

参加 岡谷市宮坂亨教育長

諏訪湖クラブ 沖野会長、八幡、高木理事

冊子(1)「諏訪湖の水生植物(変遷の軌跡)」 冊子(2)「諏訪湖の治水に繋がる釜口水門」

◆令和6年2月15日(木) 諏訪湖湖上 諏訪農村農業支援センター

諏訪湖魚介類生息環境修復事業現地学習会

◆令和6年2月26日(月) 午後1時~下諏訪町立博物館

諏訪湖の魅力を伝えよう (沖野、長崎(政)高木、八幡)

演題「諏訪湖の水生植物の変遷と将来の課題」

講師 沖野外輝夫氏(信州大学名誉教授、諏訪湖クラブ会長)



講演会の様子

◆令和6年3月5日(火) 午前10時20分~ 諏訪市立四賀小学校

冊子;水の学習「水はどこから来てどこに行くのか!」贈呈式



推進会議の様子

◆令和6年3月6日(水) 下諏訪総合文化センター

第11回諏訪湖創生ビジョン推進会議

令和5年度の活動実績

参加 77名 (沖野、宮原、井上、高木、山村、八幡)

諏訪湖の情報の共有化、諏訪湖のオープン化の動きの紹介



しゅんせつ工事の様子

◆令和6年3月14日(木) 諏訪湖湖上 諏訪地域振興局企画振興課

諏訪湖のしゅんせつ学習会

参加 53名 (井上、高木、宮坂、山村、八幡)

遊覧船に乗船し、しゅんせつについての学習会

諏訪湖創生ビジョン推進会議 令和5年度の事業概要

項目	令和5年度	課題	諏訪湖クラブ連携
(1) 諏訪湖案内人	学習&交流会イベントの開催	諏訪湖環境研究センターの取り組みと整合	作成した冊子の活用
(2) 諏訪湖のしゅんせつ課題	ワーキング5回実施 しゅんせつの試行	しゅんせつに水鳥の生息に配慮 水質の汚濁	しゅんせつに関する基礎知識の資料作成
(3) 水草対策	ワーキング1回実施 ヒシの繁茂に替わり沈水植物(クロモ、エビモ)の進出 冊子「諏訪湖の水生植物の変遷」 諏訪管内の小中学校にヒシの堆肥配布	ヒシの繁茂及び刈り取り及びヒシの堆肥化 沈水植物(クロモ、エビモ)の進出	冊子「諏訪湖の水生植物の変遷」の活用
(4) 諏訪湖における持続可能な漁業振興	ワーキング1回実施 浮き漁礁設置 ワカサギ生育状況・資源量調査 シジミのモニタリング調査実施	魚介類漁獲量の減少	令和6年度;冊子「諏訪湖の魚介類」作成
(5) 諏訪湖周自転車活用推進会議	ワーキング2回実施 令和6年4月1日諏訪湖周サイクリングロード全線開通	河川(諏訪湖)のオープン化 砥川、横河川の橋梁は車、自転車、歩行者が混在	過去に橋梁の要望をしたが。改めて要望したい

諏訪湖クラブ会員の諏訪湖創生ビジョン 令和5年度ワーキングの出欠

NO	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
項目	しゅんせつ	しゅんせつ	全国調査	しゅんせつ	ヒシの刈り取り	下水道展	しゅんせつ工事	フォーラム	漁業振興	水草対策	案内人講座	11回創生ビジョン	しゅんせつ	水草対策	12回創生ビジョン
日時	4月28日	5月25日	6月4日	6月29日	7月6日	8月1日	8月4日	10月1日	1月11日	1月22日	2月26日	3月6日	3月14日	5月21日	5月28日
内容・場所	1回目WG	2回目WG	水質調査	3回目WG	諏訪湖	札幌市	4回現地確認	ホテル紅や	1回目WG	1回目WG	下諏訪町立博物館	下諏訪町体育館	諏訪湖遊覧船	2回目WG	環境研究センター
沖野外輝夫			○	○	○			○	○	○	○	○		○	○
宮原裕一			○					○	○			○			○
金子田美					○										
井上祥一郎	○	○		○		○※1	○		○	○		○	○		○
長崎政直											○				
高木保夫	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
八幡義雄	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮坂平馬	○			○			○						○		
山村宣男	○	○							○	○		○	○		○
田代幸雄			○			○									

※1 ズームにて参加

【第2号議案】

令和5年度 会計報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日まで)

<収入の部>

単位：円

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
前期繰越金	493,590	493,590	0	前期度よりの繰越金
会費	195,000	198,000	3,000	正会員 66名分
元気づくり支援金	667,000	667,000		…①
諏訪親友会負担金		16,065		冊子増刷分…②
雑収入	410	2	△ 408	利息
合計	1,356,000	1,374,657	18,657	

<支出の部>

科目	予算額	決算額	比較増減	備考	
事業費	元気づくり支援金	833,785	847,282	13,497	…③諏訪湖クラブ負担金 ③-②-① 164,217円
	諏訪湖保全	100,000	32,210	△ 67,790	自治体連携米子、松江取材費
	自然エネルギー	5,000	0	△ 5,000	
	まちづくり	50,000	0	△ 50,000	
	大会・総会費	10,000	8,200	△ 1,800	会場費、講師謝礼
	小計	998,785	887,692	△ 111,093	
事務経費	事務費 事務委託費	30,000	41,743	11,743	インク代、封筒、コピー用紙 ホームページ維持管理
	印刷代	60,000	71,740	11,740	諏訪湖クラブニュース印刷他
	通信費	40,000	38,755	△ 1,245	郵送料・はがき代・振込手数料
	その他	50,000	36,300	△ 13,700	負担金：NPOスマートレイク賛助年会費26,300円 美しい環境づくり諏訪地域推進会議会費 10,000円
	小計	180,000	188,538	8,538	
予備費	177,215	0	△ 177,215		
合計	1,356,000	1,076,230	△ 279,770		

収支差額	298,427	次期繰越金 298,427円
------	---------	----------------

令和5年度 諏訪湖クラブ監査報告

令和5年度 諏訪湖クラブ会計決算について、監査の結果、収入・支出には不適切なく  
かつ 帳簿の整理および証票書類の保管状況も良好であると認めたので報告します。

令和6年

5月 28日

監事

井上祥一郎



【第3号議案】

令和6年度 事業計画（案）

1. 令和6年度総会の開催（令和6年6月2日3時00分～諏訪市駅前交流テラス「すわっチャオ」）
2. 定例理事会の開催（原則として毎月第3日曜日、拡大理事会として開催）

3. プロジェクト活動

1) 諏訪湖保全研究・事業

- ・ 諏訪湖創生ビジョン推進会議への参加、運営への協力（推進会議事務局に参加）
- ・ 全国一斉水質調査（令和6年6月2日（日）への協力（諏訪湖流入河川、天竜川で30地点）
- ・ 「諏訪湖底層貧酸素化対策」調査・研究
- ・ 諏訪湖淡水シジミ復活作戦への協力、支援
- ・ 一般向け諏訪湖読本「散歩しながら諏訪湖に学ぶ」の続編の企画、編集
- ・ 諏訪湖に関するWGへの参加（諏訪湖クラブが関係しているWG）

(1) 諏訪湖案内人WG

諏訪湖案内人テキスト作成の検討 諏訪湖クラブが作成した冊子の活用

- ・ 散歩しながら諏訪湖に学ぶ/諏訪湖読本/オオワシ「グル」の記録/諏訪湖の水生植物/諏訪湖の治水に繋がる釜口水門/水の学習「水はどこから来てどこの行く！」/

(2) 諏訪湖のしゅんせつ課題WG

- ・ 砥川河口部しゅんせつに水鳥の配慮
- ・ 流入河川の河口部のしゅんせつ（上川、武井田川他）

(3) 諏訪湖の水草対策WG

- ・ ヒシに替わる水草対策（沈水植物のクロモ、エビモ）

(4) 諏訪湖における持続可能な漁業振興WG

- ・ 冊子「諏訪湖の魚介類」の作成、漁業の歴史

(5) 諏訪湖周自転車活用推進会議WG

- ・ 砥川、十四瀬川、横河川河口の自転車用橋梁架設の要望

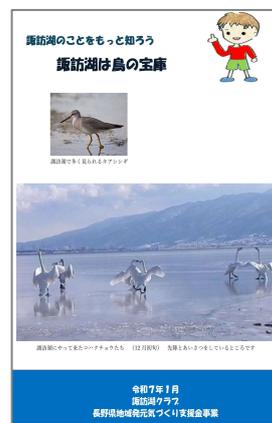
- ・ 地域発元気づくり支援金事業（令和6年度）「諏訪湖に学ぶ」  
総額 731,780 円、支援金 585,000 円決定 冊子 4 冊の作成



諏訪湖の魚介類  
A4 サイズカラー  
40 ページ  
6,000 部



諏訪の大地誕生  
B5 サイズカラー  
16 ページ  
3,000 部



諏訪湖は鳥の宝庫  
A4 サイズカラー  
32 ページ  
6,000 部



蚕糸業とカイコの生態  
A4 サイズカラー  
24 ページ  
3,500 部

- ・「諏訪湖通信」の作成・発行 1回/月 令和6年4月22日発行 70号
- ・天竜川流域土砂総合管理計画に協力（上流部会検討委員会委員）

2) 自然エネルギー活用計画の推進

- ・「信州ネットSUWA」活動への協力
- ・地産地消事業/環境保全型農業への支援

3) 諏訪圏域まちづくり計画への支援

- ・美しい環境づくり諏訪地域推進会議への協力（運営委員）
- ・諏訪湖トリアスロンのボランティア活動に参加
- ・諏訪市環境審議会への協力
- ・「諏訪市女声ネットの会」、「諏訪市いきいき市民推進チーム・輝くSUWA」等の活動に協力
- ・すわまちクラブ活動への協力
- ・(国) 信州大学、諏訪湖臨湖実験場の研究活動に協力
- ・すわ防災ネットワーク活動への協力【防災】
- ・(公) 諏訪東京理科大学の研究活動に協力、諏訪市西山地区の土石流防災システム他【防災】
- ・諏訪圏工業メッセへの協力
- ・その他会員の諏訪圏域まちづくり計画への支援 下水道の市民科学（井上祥一郎氏）

4. 講座、講演会、環境事業の開催と支援

- ・諏訪湖環境保全セミナー、講演会等の開催（他団体との協働）

5. 会報の発行と新規会員の獲得

- ・諏訪湖クラブニュースの発行 4回/年 令和6年1月に38号、4月に39号発行、7月に40号、10月に41号、令和7年1月に42号発行予定
- ・諏訪湖クラブの将来計画の検討（検討チームを立ち上げ）
- ・ホームページの充実と活用

○現在掲載されている冊子

- (1) 冊子/散歩しながら諏訪湖を学ぶ
- (2) 冊子/諏訪湖を愛したオオワシ「グル」の記録
- (3) 紙芝居/オオワシと鳥きち爺さん
- (4) 冊子/諏訪湖の水生植物
- (5) 冊子/諏訪湖の治水に繋がる釜口水門
- (6) 冊子/水の学習「水はどこから来てどこに行く！」

諏訪湖クラブニュース1号～39号

○令和6年度に掲載予定

- (1) 諏訪湖クラブニュース令和6年40号、41号、令和7年1月42号
- (2) 冊子/諏訪湖チャリティー・ウォーク記念誌
- (3) 諏訪湖クラブのこれまでの取り組み
- (4) 令和6年度元気づくり支援金で作成した冊子4冊
- (5) その他 全国一斉水質調査

6. その他、クラブの目的に沿う事業

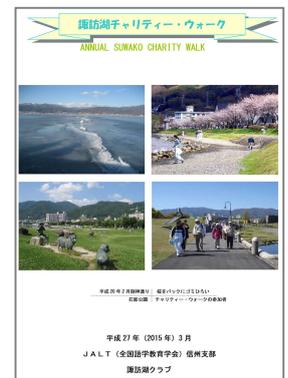
豊かな湖を取り戻す「自治体連携（茨城・長野・滋賀・鳥取・島根）」官民共同で推進活動



諏訪湖通信 70号



諏訪湖クラブニュース 39号



諏訪湖チャリティー・ウォーク・記念誌号

長野県地域発元気づくり支援金事業 「諏訪湖に学ぶ」三ヶ年計画（案） 令和3年、5年、6年 諏訪湖クラブ

	令和3年	令和5年	令和6年（案）
LCV放映番組DVD化 (1)諏訪湖底の狩人たち (2)諏訪の大地誕生 (3)諏訪湖は鳥の宝庫 (4)諏訪湖の治水 (5)誰もが楽しめる諏訪湖 (6)諏訪湖のめぐみ	200本 275,000	諏訪湖の水生植物 A4サイズ、36ページ 水生植物の変遷 水生植物の生活様式 水質の変動と水生植物 編集 沖野外輝夫	「諏訪湖に生息する魚介類」 A4サイズ、40ページ 諏訪湖の魚類 諏訪湖のエビ類 諏訪湖の貝類の減少 プランクトン 協力；武居薫氏、漁業組合
1			
オオワシ「グル」の記録 A4サイズ72ページ オオワシの生態 オオワシ「グル」の介護 オオワシなどの猛禽を守る グルと地域の人のふれ合い	6,000部 440,430 	うんち君の旅 A4サイズ、16ページ 水はどこから来るの うんち君の旅 下水をきれいにする微生物 協力；GKP下水道広報7°ラットホーム 諏訪湖流域下水道事務所	諏訪湖のことをもっと知ろう 「諏訪の大地誕生」 A4サイズ、16ページ フォッサマグナの誕生 プルアパート 開口運動 協力；北澤和男氏
2			
令和6年度元気づくり支援金 支援金（重点事業） ソフト4/5、ハード3/4 支援金下限 30万円 令和5年12月 説明会 令和6年 1月26日 事業計画書申請 2月28日 ヒアリング 4月26日 内示 5月10日 本申請 5月20日 正式認可・事業開始	紙芝居 オオワシと鳥さち爺さん B4サイズ12ページ 絵・林正敏 協力；絵手紙「福の会」	諏訪湖のことをもっと知ろう 「諏訪湖は鳥の宝庫」 A4サイズ、32ページ コハクチョウの飛来 カワウの生態 渡り鳥の生態 協力；林正敏、笠原里恵氏	諏訪湖のことをもっと知ろう 「諏訪湖は鳥の宝庫」 A4サイズ、32ページ コハクチョウの飛来 カワウの生態 渡り鳥の生態 協力；林正敏、笠原里恵氏
3			
諏訪湖のことをもっと知ろう 「④治水に繋がる釜口水門」 A4サイズ、32ページ 明治時代の諏訪湖の氾濫 水車事件 釜口水門の建設 協力；諏訪建設事務所	6,000部 213,400 	諏訪湖のことをもっと知ろう 「日本の近代化を支えた蚕糸業とカイコの生態」 A4サイズ、24ページ カイコの不思議 協力；伴野豊氏	3,500部 121,540 
4			
合計	716,870	847,282	731,780
元気づくり支援金	431,000	667,000	585,000
諏訪湖クラブ負担金	172,740	164,217	140,990
寄付金他	113,130	16,065	5,790
負担内訳			
		×4/5（千円止め）	×4/5（千円止め）
		諏訪親友会負担金（予定）	諏訪親友会負担金（予定）
		166,785	166,785
		当初の諏訪湖クラブ負担金	

【第4号議案】

令和6年度 予算（案）  
（令和6年4月1日～令和7年3月31日まで）

<収入の部>

単位：円

科 目	前年度決算額	予算額	備 考
前期繰越金	493,590	298,427	前期度よりの繰越金
会 費	198,000	198,000	正会員 66名分
元気づくり支援金	667,000	585,000	…①
諏訪親友会負担金	16,065	5,790	…② 印刷増刷分
雑収入	2	783	利息他
合 計	1,374,657	1,088,000	

<支出の部>

科 目	前年度決算額	予算額	備 考	
事業費	元気づくり支援金	847,282	731,780 …③諏訪湖クラブ負担金 ③-②-① 140,990円	
	諏訪湖保全	32,210	100,000 自治体連携活動/宍道湖、中海交流支援 旅費の一部	
	自然エネルギー	0	5,000	
	まちづくり	0	5,000	
	大会・総会費	8,200	10,000	会場費、講師謝礼
	小 計	887,692	887,692	
事務経費	事務費 事務委託費	41,743	30,000 インク代、封筒、コピー用紙 ホームページ維持管理	
	印刷代	71,740	60,000 諏訪湖クラブニュース印刷他	
	通信費	38,755	40,000 郵送料・はがき代・振込手数料	
	その他	36,300	40,000 負担金：NPOスマートレイク賛助年会費26,300円 美しい環境づくり諏訪地域推進会議会費 10,000円	
	小 計	188,538	170,000	
予備費	0	30,308		
合 計	1,076,230	1,088,000		
差引金額	298,427	0		

令和5・6年度 諏訪湖クラブ役員

令和6年6月1日現在

会長	沖野 外輝夫
副会長	小林 聖仁、金子 田美、宮原 裕一
専務理事	長崎 政直
理事（庶務・会計）	高木 保夫
理事（広報）	八幡 義雄
理事	長崎 功
理事	五味 光一
理事	鴨志田 明子
理事	山村 宜男
理事	宮坂 平馬
理事	市川 純章
理事	田代 幸雄
監事	井上 祥一郎、宮坂 平馬
顧問	鮎沢 光昭、中島 恵理
事務局	392-0017 諏訪市城南二丁目 2362 TEL/FAX 0266-58-0490 沖野 外輝夫
メール	E-mail <a href="mailto:e-suwa-info@lake.gr.jp">e-suwa-info@lake.gr.jp</a>
ホームページ	<a href="https://suwako-club.com/about.html">https://suwako-club.com/about.html</a>

○会員の動向 令和6年6月1日現在

会員数 78人

諏訪市 33人 岡谷市 9人 下諏訪町 17人 茅野市 5人 富士見町 3人  
長野県内 4人 県外 7人

**物故者** ご冥福をお祈り申し上げます

小池 玲子 様 諏訪市  
小口 剛 様 下諏訪町  
谷 辰夫 様 千葉県我孫子市

**退会者** お世話になりました

北原 正義 様 伊那市  
奥原 正夫 様 茅野市  
小津 豪志 様 諏訪市  
船瀬 芳子 様 諏訪市

**新しく入会された方** よろしくお願ひします

**溝口 郁夫さん**

〒392-0022 諏訪市高島 1201-5 103号  
TEL 0266-78-6095

**畑 恭子さん**

〒216-0033 神奈川県川崎市宮前区宮崎 6-7-34  
携帯 090-9373-4692

**山田 雄一さん**

〒394-0083 岡谷市長地御所 2-1-19  
携帯 090-3080-3090

## カイコと日本と私たち—歴史と研究の視点から—

伴野 豊

### はじめに

令和6年度の諏訪湖クラブ定期総会記念講演の機会をいただきました。私は九州大学で長年、多様なカイコの系統保存とそれを用いたカイコの遺伝学を中心にして研究を続けてきましたので、上記のようなタイトルでお話しさせていただきました。ここにはその骨子を綴りました。



カイコ幼虫（5 齢）

### カイコと日本（日本の転換期に頼れる昆虫）

開国した日本は外貨を獲得する政策として、幕藩体制下で一定量の生産をあげていた綿織物と生糸輸出を取り上げた。

当初は綿織物の輸出は順調であったが、生産が増えるに従い、原料となる綿の海外依存度が高まった。そのため、純益は原料代に大きく左右された。一方、生糸は原料である繭は国内生産であったので一気通貫型の生産ができ、純益が高かった。このため日本政府は、早々にシルクへ舵を切ったのである。その後、生糸輸出は貿易額の大半を占め、日本の近代国家形成に役立ったのである。このことは歴史の教科書で習うことである。しかし、実は戦後の食糧難という国難にもカイコは貢献したのである。敗戦直後の日本は未曾有の食糧難に陥った。小学校の校庭なども畑として利用された。日本政府は当時全国に残存していた桑園 24 万 ha の約 60% の 15 万 ha を整理して食糧作物に転換する計画をたてた。しかし、GHQ 駐軍最高司令部はこれにストップをかけたのである。その理由は以下のようであった。桑園転換による食糧増産程度では日本の飢餓問題は解決できない。むしろ日本にある世界に通用する産業であるシルク生産を復活させ、食糧輸入の見返り物資とすべしというものであった。私などはこの事実を知るまで、米国により食糧は無償に近い形で支援されていたと思っていた。しかしながら食糧支援の見返りに米国は自国では手に入らない、日本の特産物と言えるシルクを求めていたのである。小学生時代にコッペパン、脱脂粉乳で育った世代の米離れが進んで、いまでは米の消費が大きく落ち込んでいる。戦争によって食文化まで変更させる意図があったのかと思うのは考えすぎであろうか。

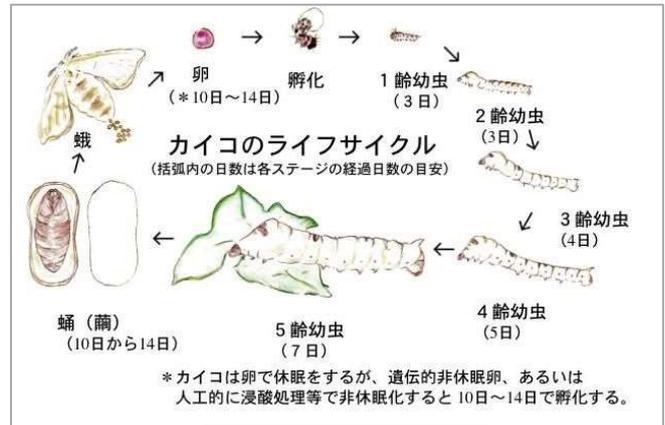
### 諏訪とシルク

諏訪が製糸業で栄えたことは余りにも有名である。中心地であった平野村は生糸の生産世界一を誇り、町制を飛び越え、一挙に市制へ移行した。県下ではいち早く自動電話交換局が岡谷（平野村）へ設置された。国内外（特にニューヨーク市場）の生糸、シルクの価格をいち早く入手し、生産計画、輸送、販売戦略の情報を得たのである。そのほか、市庁舎が製糸業社から寄贈され、今でも市中心部のシンボル景観となっている。諏訪湖畔に工女さんの厚生施設として建設された片倉館は重要な観光資源となっている。それ以外にも諏訪地方にはシルクと結びついた遺産があちらこちらに残っている。ところで、何故、諏訪地方が世界一の製糸業地帯になり得たのであろうか。日本が開国し外国に追いつく為に官営工場が作られた。福岡県の八幡製鉄所、群馬県の富岡製糸場は教科書に登場する。鉄鋼生産の模範工場が設立された北九州はその後、大工業地帯へと発展した。しかし、製糸業の中心は官営工場ができた群馬県ではなく諏訪地方となった。長野県内でも上田、飯田、松本など発展する可能性のある地は多かったのである。この理由については経済学者を中心に研究が行われているが、私は、矢木明夫氏の「岡谷の製糸業」経済評論社 1980 年に一理があるように感じている。矢木は平野村誌などの資料をもとに考察

している。富岡の官営工場は国の模範工場であったので、各地の生糸生産地では生産体制の近代化に注力した。すなわち発展の可能性は各地にあったのである。矢木は平野村誌の次の一文を重視している。「明治初年器械製糸の始まった頃、松本平・飯田地方の営業者は概ね財産家が多く、自分ではお羽織りで世話をやいている人が多かった。この地方（諏訪）の業者は自分の労力を資本の重要なものとし、主人は未明に起きて釜を炊き、主婦は炊事婦となり、息子は見番雑役に----中略---繭にも自ら赴き、帰途には十貫以上のものを天秤棒で肩にし来るを常とした」つまり、諏訪地方の営業者は、生産者的勤労者として生糸生産工程全般を対象に生産性向上に努力したというのである。

### カイコと九州大学

日本は蚕糸業を発展のための研究、教育体制を整備しました。東京大学、北海道大学、九州大学などに養蚕学講座を明治、大正期に設置、東京、京都、上田には蚕糸専門学校（現在の東京農工大学、京都工芸繊維大学、信州大学）が設置されました。国の試験場は東京杉並高円寺に本場、全国各地に支場が置かれ、県内には松本、岡谷に支場、試験所が配置されました。ご存知のようにカイコは桑の葉を食べて成長します。高品質で生産性の高いシルク生産の基本となるのはカイコの育種にあります。1年に何世代を飼育できるかが重要になります。九州大学は暖地にあり、桑が4月から12月まで収穫できます。カイコは1世代が50日ほどですので5世代の飼育が出来、育種や遺伝の研究に有利な環境にあります。北海道では2世代、東京では3世代です。このため、九州大学はカイコの遺伝、育種研究が盛んとなり、現在に至っています。日本では養蚕業が盛んであったために年間に数百億匹のカイコが飼育され、その中から多様な突然変異のカイコが発見されました。それらは生物学の基礎研究から応用研究に使われています。現在では世界一のコレクションとなっています。カイコの保存は卵で行われますが、1年しか保存ができないために毎年800種類ほどのカイコが飼育されていました。しかし、精子や卵巣を液体窒素中に保存する方法を私が九州大学在籍中に開発し、実用されています。



カイコの生活史

九州大学は暖地にあり、桑が4月から12月まで収穫できます。カイコは1世代が50日ほどですので5世代の飼育が出来、育種や遺伝の研究に有利な環境にあります。北海道では2世代、東京では3世代です。このため、九州大学はカイコの遺伝、育種研究が盛んとなり、現在に至っています。日本では養蚕業が盛んであったために年間に数百億匹のカイコが飼育され、その中から多様な突然変異のカイコが発見されました。それらは生物学の基礎研究から応用研究に使われています。現在では世界一のコレクションとなっています。カイコの保存は卵で行われますが、1年しか保存ができないために毎年800種類ほどのカイコが飼育されていました。しかし、精子や卵巣を液体窒素中に保存する方法を私が九州大学在籍中に開発し、実用されています。



繭色の突然変異（人工着色ではありません）

### おわりに

カイコは一介の昆虫ですが、開国時、敗戦時に頼りになった昆虫です。租庸調の時代から日本人の生活に関わってきた身近な生き物です。養蚕業が急速に廃れ、諏訪地方では岡谷と茅野に2軒の養蚕農家が残るのみです。カイコを育てるためには桑作り、そして養蚕。ここまでは植物学、動物学、農学分野が関わります。繭から糸を取る製糸は工業、工学分野、その後の織物、染色は工芸、化学分野。織物は芸術の域にも達するものです。多様な角度から私たちの生活とつながるカイコ、シルク。開国時、敗戦時に頼りになった昆虫をシルクと深い関係のある諏訪の地でなんとか活かしたいものである。

諏訪湖に沈められたと民話にも伝承される武田信玄の水中墓調査について

沖野 外輝夫

天正元年（1573）、武田信玄は上洛の途上で病に倒れ、4月12日に信州の駒場城（下伊那郡根羽村）で息を引き取りました。死にあたって「三年間は余の死を隠し、その後余の遺骨は具足を付けて諏訪の湖に沈めよ」と遺言を残したとされています。この石棺が沈められる情景を伝える「諏訪のでんせつ」には、以下のように記されています。

時は、天正3年（1576）4月12日の真夜中です。その夜は諏訪湖の上の空に、どす黒い雲がおおっていました。さっきまで雲の切れ間から、ちょっと顔をのぞかせていた三日月も西の山にかくれました。星の一つも瞬いていません。…中略…真っ赤な石の棺が、侍の手から離れ、ズブン、ズブ、ズブ…鈍い音を出しながら、たいまつで真っ赤に輝く湖の底へ消えていきました。石の棺が湖の底へ届いたのか、数えきれない赤い泡が、次々と浮かんで消えました。しばらくして、一つ大きい、血のような泡がぽかんと浮いて、プツンと消えました。それだけです。たいまつが消されました。辺りは再び真の闇と真の静けさに戻りました。……

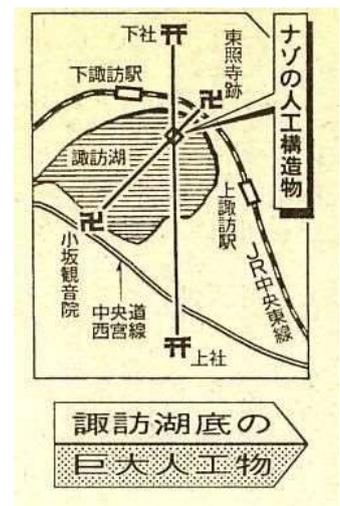
1987年のある日、諏訪湖の湖底の微地形調査を担当していた、国土地理院地質調査所の研究員と現地調査の委託を受け、サイドスキャンソナー（超音波探知機）で測定を行っていた技師が調査結果の画像を携えて信州大学理学部付属諏訪湖臨湖実験所の沖野外輝夫所長を訪れた。用件は諏訪湖の湖底図を作成するにあたって、最後まで残った不明物の正体について、であった。その画像を見ると一辺25メートルの形状が写されていた。形状からして人工物らしいが、その後の聞き込みでも該当物はなかった。そこで浮上したのが前記の民話である。しかし、民話には諏訪所南岸にある小坂神能堂沖とされていて、今回の不明物とは正反対の位置であり、該当しない。武田信玄の軍書「甲陽軍鑑」にも、遺言は実行されなかった、とあり、これが史実としては通説である。

不明物の存在地は下諏訪町高浜沖数百メートルの地点、作業をするには入江状で遠浅の高浜という集落があり、浜の背後には甲州街道が通り、人の出入り、物品の運び込みにも便利である。遺言の小坂観音沖を広く解釈すれば、高浜沖もあり得るのでは、秋の夜長の格好の話題となった。

水上作業では必ず場所を特定するために見通し線を取るために両端に目印となる不動の事物を選ぶことが常識である。では、この場合は何を見通し線の両端に選んだのだろうか。信玄は軍神として諏訪神社を崇敬し、出陣には常に参拝していたことが知られている。当時の湖畔には大きな人工物はなく諏訪大社の上社本宮と下社秋宮は格好な目印であったに違いない。五万分の一の地図上で両神社に物差しを当ててみた。なんと、謎の不明物は上社と下社を結ぶ線上にぴったりと乗っていた。

通常、見通し線は二本取る、ならば不明物を通る2本目の線はどうだろうか。一端は遺言にある小坂観音院に間違いない。では対岸には目印となる神社、仏閣はあるだろうか。この段階ではそれらしき神社は見つからず。春になると訪れ、花見を楽しんだ枝垂れ桜の古木がある大地の辺りと検討をつけた。その後、この問題に興味を持ち、一緒にあれこれ座談に加わっていた読売新聞諏訪支社の塩川記者が現地付近で熱心に聞き込みを続けた結果、その土地には江戸時代中期に廃寺となった東照寺があったことが分かった。そういえば桜の古木の周辺には古い墓石が散在していたことが思い出された。

この二本目の見通し線についてはもう一つその後談がある。地元の山城を熱心に調べている宮坂氏がこの件に興味を持ち、知らせてくれたことである。不明物を中心として直角に交わせると西には釜口水門上の花岡城址、東には大和城址があり、両城共に武田氏所縁の城であるとのことだ。東西南北の見通し線となれば説得力も増してくる。



国土地理院の湖底調査後いくつかの発掘調査が行われた。

### ○信州大学理学部付属諏訪湖臨湖実験所

第一次調査 昭和63年(1988)11月26、27日 潜水士が潜水服に身を固め、船上から空気を供給し、直接湖底を棒で突き刺す方法で水深4メートル、膝まで埋まるヘドロと視界40cmくらいでの作業は困難を極め二日間とも手掛かりが得られなかった。連日新聞、テレビ、週刊誌などが百人近い報道関係者が詰めかけ、上空には数機のヘリが舞うなど大変な騒ぎであった。

第二次調査 1988年12月20日；ひし形の映像をとらえたソナーを使い同じ技師が同じ方法で水域をくまなく探したがひし形は現れなかった。技師は首をひねるだけで、理由がわからない。翌日に予定していた潜水作業は中止し、探査を打ち切った。

### ○読売新聞・日テレ合同調査

諏訪湖臨湖実験所の協力を得て1989年12月4日から翌年11月30日迄5回、延べ30日を超える調査を実施

第一次探査 1989年12月4日～7日；日本水中考古学会の茂在寅男副会長をチーフに、最新鋭の電磁波探知機(水中・水底下レーダー)を投入。この水域で20数メートル四方のくぼ地を発見。中央部近くには3～4メートルの穴があり軟泥の中から70cmの縦長の物体がモニター画面に映し出された。船上から棒で突くとコトン、コトンとの音が聞こえるのだが時間切れで物体の確認に至らないまま切り上げ。その後第二次から五次まで調査を実施したが、謎のひし形内部にある物体の究明、信玄の墓が湖底のどこかに存在する可能性を残し終了。

調査した会社の見解

「今後、そのひし形がなぜできたのか、ひし形内部に“信玄の墓”に結びつく何かがあるかは専門の方々にゆだねることとする」と調査報告書を結んでいる。

結末はどうであれ、探査が地域住民の注目をあび、副産物として諏訪湖の浄化意識を高めることに繋がったと考える人が多い。

### ○令和6年4月 京都の宮帯出版社が信玄の水中墓伝説の調査実施

令和6年4月14日(日)午前9時～

参加；沖野外輝夫信大名誉教授他2名 宮帯出版社；宮下玄<sup>はるまさ</sup>覇社長、ダイバー6人

言い伝えによると天正3年4月12日に棺を沈めたとされている時期的に同じ4月14日に調査が実施された。結果はこれまでの調査と同様に空振りであった。

潜水チームが現地に着く前に沖野チームが小舟で目的地の水域に先行、潜水チームを誘導し、台船を固定、潜水調査を開始した。調査の内容、結果は自元新聞の紹介記事にある通りである。潜水チームも調査が簡単ではないことを実感したようだが、諦めてはいないようである。日本の戦国時代に活躍した武将の技術面での知識や経験、それを支える家臣団の作業力は、日本各地に残存する城址、濠、そして軍団を移動させる道路造成、地域の生活を守る河川改修など、想像以上に高い水準にあったことを考えると、武田信玄の水中墓も夢ではなかったのかもしれない。しかし、現実には完成した墓はないが真実ではないだろうか。なぜならば、信玄の遺言、死後3年後には墓造成の責任者と目される山縣政景は、信玄死後2年目の長篠の戦いで討ち死、還らぬ人となっているからである。

では、サイドスキャンソナーに映った謎の方形物体は何だったのか。これから先は筆者の勝手な推測であるが、武田信



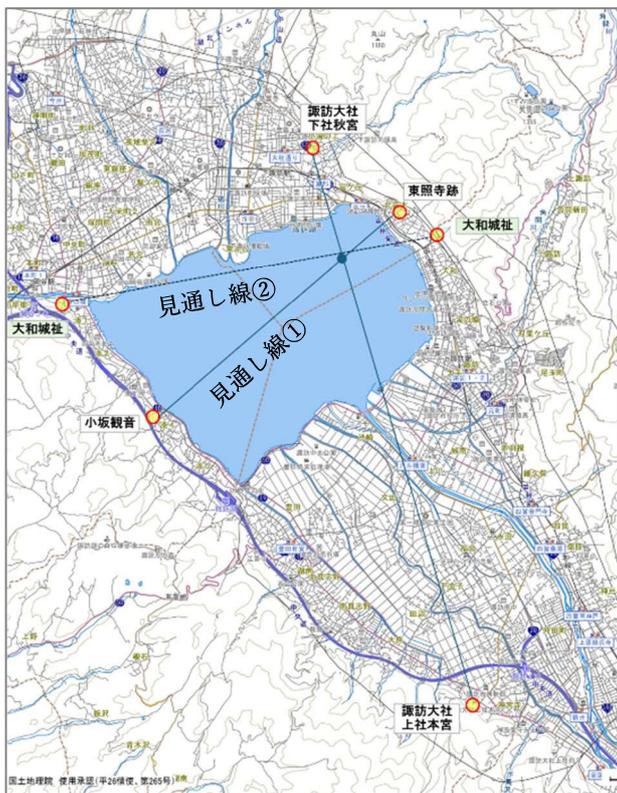
水中ドローンでの探索の様子

玄の遺言の重さ、当時の武田軍団の技術力、当時の武田家をめぐる社会的事情などから考えて、何もなかったとは考え難い。遺言には3年の猶予が付けられている。その1年目は通常、計画立案、仕事の段取り、資材の準備に当てられる。その中には墓を支える墓域の地固めも作業もあるだろう。あの謎の方形物体は中央に安置する墓石を支える土台として作られた墓域なのではないだろうか。中央部が窪地となっているのは墓石を安定させるための仕組みであり、仮に大きな石材を置いていても不思議はない。一年目でそこまで作業を進めることも至難の業であろうが現実の余裕は2年もなく、完成には至らなかった。担当者の無念さが目に浮かぶようである。

造成されたかもしれない墓域の土台の上には500年の間に積もった湖底泥が1~2mの厚さで積もっている筈である。潜って、手探りで探しても何も見つからない、ましてや潜って湖底を見渡しても見えるはずがないのは当然であろう。そこでまた謎が残った。根羽村のお寺で息を引き取った信玄の遺体は何処に仮安置され、その後は何処へ？ 謎は謎を呼ぶ。信玄らしいことだ。



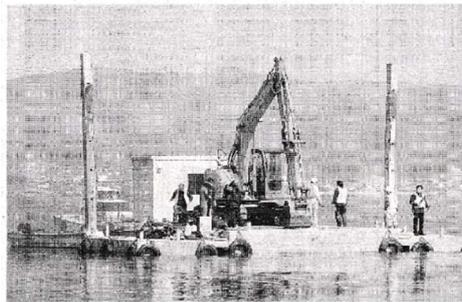
ダイバーによる調査開始



- 謎の不明物の位置を特定する見通し線①東照寺⇔小坂観音、  
②大和城址⇔花岡城址  
③諏訪大社上社本宮⇔下社秋宮

# 信玄の“水中墓”、諏訪湖で調査

## 伝説を基に 京都の出版社



台船で水中調査に向かう宮帯出版社社員やダイバーら

諏訪湖で14日、武田信玄の水中墓伝説の調査が行われた。歴史や美術の研究・専門書などを出版する宮帯出版社（本社・京都府・京都市）が協力者を募り、下諏訪町・浜湾の沖合500mほどの地点をダイバーや水中ドローンによる潜水調査を実施。墓につながるものは発見できなかったが、同社の宮下秋嗣社長は「次は金属探知機を使って調べたい」と調査の継続に意欲を示した。（山本雄太）

信玄は「自身の死を3年間隠し、遺体は真定を付けて諏訪湖に沈めよう」との旨の遺言を残したとされ、古くから諏訪湖の湖底に墓があるという言い伝えがある。1980年代に国土地理院の湖底地形調査で、一辺25mのひし型をした人工物と思われる構造物があることが判明。構造物が武田家の家紋武田菱に似ていたことから、水中墓発見への期待が高まった。その後、信州大学諏訪臨湖実験所諏訪市やテレビ局が大規模な調査を行ったが、構造物は発見されなかった。そこから十数年、小さな頃に諏訪中出身の母親から諏

訪湖に信玄の墓があると聞いて、ドローンを潜らせたほめていたという宮下社長。以前からダイバーが湖底を調べた。水深370~800mの湖底には50センチほどの泥が堆積しており、ダイバーは泥の中に足を依りかかると、20~30分は計2回潜ったが、何も見つけられなかった。それでもダイバーらは「ロマンを感じる」とわくわくし、10日に水中ドローンを洗って調査。14日は同社員や沖野さん、調査に関心を持った有志のダイバー6人が参加

### 「縄文のまち」再認識

茅野市八ヶ岳総合博物館 遺跡巡るバスツアー

茅野市八ヶ岳総合博物館の、桜景色の中、初めて島開き「縄文遺跡を巡るバスツアー」が14日市内で行われた。案内役は小池岳館長と守矢文時特別館長。豊平の縄文の主だった遺跡が中心で、立ち寄り場所が決まっていたが、今回は「目的は当日のお楽しみ。市民ら18人が参加して

長野日報掲載記事（令和6年4月15日）

## 第2回諏訪湖トライアスロンのボランティア活動に参加して

令和4年の6月25日（土）に始めた第2回目諏訪湖トライアスロンが、令和6年6月23日（日）に開催されました。生憎の雨降りとなり大会関係者が健康に配慮し短縮したコースとなりましたが、諏訪湖周及び八ヶ岳山麓を舞台に820人が参加され、熱気のこもった大会となりました。（ボランティア活動に1,300人参加）

優勝記録 男性 榊原佑基さん（33）3時間10分51秒  
女性 太田麻衣子さん3時間49分21秒

# 湖周と山麓 激走 力泳

トライアスロン 雨中に820人挑む



諏訪湖を一周するトライアスロン大会は、国内初の88.1kmのコースで開催された。雨降る中、820人が参加し、激走の姿が印象的だった。大会関係者は、雨天の開催に配慮し、短縮したコースとした。ボランティア活動も盛んに行われ、選手を応援する声援が絶えなかった。

大会関係者は、雨天の開催に配慮し、短縮したコースとした。ボランティア活動も盛んに行われ、選手を応援する声援が絶えなかった。

長野日報掲載記事



### コースの紹介 83 km (88.1 km)

- ① スイムコース 1 km (1.9 km)  
下諏訪ローイングパークから、消波堤内の比較的波の穏やかなコース
- ② バイクコース 66.2 km (66.2 km)  
ローイングパークに隣接する赤砂崎公園をスタートし、諏訪湖周を走行したあと、八ヶ岳を見ながら、御柱祭で有名な登り基調の御柱街道方面へ。一旦登りきったら快適なアップダウンが続くエコーラインを走行し、再び諏訪湖を目指します。約66kmの走り応えのあるコース。
- ③ ランコース 16 km (20 km)  
諏訪湖ヨットハーバーを発着点とし交通規制を要しないジョギングロードとして整備された諏訪湖周を走る16kmのコース。  
( ) 書きは当初予定したコース

### 諏訪湖クラブ会員もボランティア活動に参加

会員5人がボランティア活動に参加し、交通整理の合間に声をからしての応援をしました。

後半の下りコースでしたので選手も余裕があり声援に対して多くの方が会釈したり手を上げたりしてくれました。「ありがとう」と声にしてくれる人もいました。



担当区間



参加した選手を応援するボランティア活動に参加した田辺さん、高木さんの奥さん、宮坂平馬さん



## ■ 林正敏さんが所有の鳥類標本 2,400 点他を八ヶ岳美術館にて展示会

### 八ヶ岳美術館で「林正敏蔵・野鳥関係資料展」開催

**日 時** 令和6年8日(土)～7月7日(日) 9時～17時(入館は16時30分までに)

**場 所** 八ヶ岳美術館 諏訪郡原村 17217-1611 電話 0266-74-2701

**内 容** 鳥の剥製他を展示

**講 演** 7月4日(木) 13時30分～ 講師 林正敏氏

明治末期から大正期にかけ鳥類学の黎明期に集められた数多くの鳥の標本を保管している諏訪湖クラブ会員の林正敏さんが、このほど国立科学博物館と協議の末、資料全点を寄贈することが決まりました。これを前に6月8日(土)から7月7日(日)まで原村の八ヶ岳美術館で公開展示が行われました。

科博へ寄贈される標本類は、鳥類が約2,400点、各種鳥卵が約670点、小型獣類が約50点、このほか歴史的な標本図画の掛け軸や、大正期の狩猟鳥類掛図(石版画)など10点です。贈られる鳥の標本は全て仮剥製で、研究用を目的に製作されているため学術標本と呼ばれています。

林さん宅で保管していたこの標本は2ヵ所から贈られたもので、松本市の実業家で農商務省の鳥獣調査員だった故高山忠四朗氏(1901-1993)が県内で捕獲した鳥類で当時は狩猟鳥だったライチョウをはじめホシガラス、イワヒバリなど北アルプスの鳥も数多くあります。

もう一方は旧上諏訪町長を務めた金井汲治氏(1858-1939)が蒐集した鳥類で、大型猛禽類や大型水鳥もあり1893年に上諏訪湯の脇で採集したオオワシのほか、子息で戦後初の諏訪市長を務めた金井清氏(1884-1966)が、中国大陸で入手したクロハゲワシなど特大の標本類などもあります。

### 林正敏氏の講演の内容

演題：「私にとっての標本と先人の偉業」

一般の方が国立科学博物館に寄贈される標本を見ることはほとんど不可能であると思われることから、林正敏さんの講演がある7月4日には日本野鳥の会の会長上田恵介さんを始め、約150名と用意した会場の椅子が足りないくらいの方が全国各地から来てくれたようでした。

林正敏さんの講演は、夢多き子供の頃のいきものとの出会いから始め、鳥との様々な出会い、鳥類標本が林さんの家にやってきた経緯等興味あるお話を聞くことが出来、林さんの鳥に関する愛情の深さを改めて知ることが出来ました。

45年間と長い間鳥類の標本を良好な状態で管理してきたことは並々ならぬ苦労があったと思われますが、国立科学博物館に包蔵されることに林正敏さんもホットしていることだと思います。



子どもの頃を話される林さん



展示会の様子



鳥類標本展示会のリーフレット

## 講演の内容金井汲治・清 親子についての紹介

金井家は江戸時代には高島藩の藩士で、**金井汲治**は安政5年(1858)に生まれ、長野師範学校を卒業後、教員となりました。その後、地方自治に従事し、県会議員も務めています。そして、明治35年、明治39年から40年、大正10年から14年、昭和10年から13年と、4回上諏訪町の町長を務めています。

汲治は政治家としての顔以外に、教育者、また、歴史や論理、そして博物を好み、動物の採集・標本製作を行い、とくに蝶類と鳥類について研究し、成果が雑誌などに掲載されています。

諏訪地域の近代博物学の先駆者のひとりであることが、今回の八ヶ岳美術館の展示で再認識され、改めて評価されるべき人物であるといえます。

息子の**金井清**は、明治17年(1884)生まれで、終戦直後の昭和20年10月から22年4月までと、昭和26年4月から30年4月までの2期、諏訪市の市長を務めている人物です。第一高等学校(現在の東京大学の前身校のひとつ)に学び、外国語が堪能であったことなどから、明治38年(1905)、博物資料の収集で来日していたイギリス大英博物館のアメリカ人動物学者、マルコム・アンダーソンの通訳として全国を随行しています。この時、奈良県吉野村鷲家口で猟師が捕えたニホンオオカミの入手で交渉にあたり、アンダーソンがイギリスに持ち帰りました。実は、この時のニホンオオカミが、日本で最後に採集されたニホンオオカミであったといわれ、清は歴史的な場面に立ち会っていた、父とは違った意味で博物学上に名を遺した人物でもあります。

(諏訪市博物館 HP より)



金井汲治氏

## 地球の宝を守れと銘打った国立科学博物館のクラウドファンディングで9億円を超える支援

令和5年8月、未曾有の運営危機を訴え「かはく史上最大の挑戦」と銘打ってクラウドファンディングを立ち上げた国立科学博物館。8月7日(月)に開始したが開始後9時間で目標金額の1億円を達成し、その後も11月5日(日)の期限を迎えるまで1日も途切れることなくご支援をいただき、約5.7万人の皆様から約9.2億円のご支援を受けた。

3ヶ月の募集期間で、支援総額は916,025,000円、支援者56,584人。金額・人数ともに国内CFの最高記録を更新した。

### クラウドファンディング成功に向けた国立科学博物館の活動について

当館は、[地球や生命の歴史と現在、科学技術の歴史]を研究するため、標本・資料を収集しています。収集の対象は動物、植物、菌類標本、生きた植物、鉱物、化石、人骨、科学技術史資料など多岐にわたり、60名を超える各分野の研究者がこれらの標本をもとに日夜研究に励んでいます。今回、当館ではクラウドファンディングの成功、そして「地球の宝を守れ」という大きな目標の達成に向けて、当館の幅広い活動、コレクションの多様性や奥深さ、そこにかける研究員たちの熱意を伝えることを意識し、様々な取組を実施いたしました。・多様なリターンの検討、研究員・職員一同でアイデアを出しあい何度も議論し、200以上の候補の中から40種類以上のリターンを選定し、リターンからもコレクションの重要性や魅力を発信できるようにいたしました。現在、ご支援者様への感謝の気持ちを込めて館を上げて一丸となり準備に取り組んでいるところです。

- 国立科学博物館 東京都台東区上野公園7-20 上野駅 JR公園出口から徒歩約5分





## 新会員の紹介です。 よろしくお願ひします

山田 雄一さん

「諏訪湖と私」

岡谷市に生まれ育ち、通った小学校から諏訪湖は歩いて10分、中学校は湖岸だった。湖周マラソンの高校卒業で地元を離れても、帰省の中央線車窓から湖面が目に入ると、ふるさとへ帰った感が沸いた。67歳の半世紀ぶりUターンから6年目。身近さ復活の諏訪湖と新たに向き合っている。

全国紙の在職44年間でスポーツ報道に長く携わった。退職後、長野日報で隔週連載スポーツコラム担当の幸運に浴して4年目。6月で85回を数え、諏訪湖がテーマの記事はいくつもある。驚いたのが一昨年6月に初開催のトライアスロン大会だ。諏訪湖で泳ぐ、と聞いたとき信じられなかった。しかし、好評のうちに実現だ。腐敗アオコの悪臭に満ちていた半世紀前から改善が進んでいるとは聞いていたが、泳げるレベルにまで戻っているとは---

そして、諏訪湖浄化に向け、官民挙げてのたゆまぬ努力があったことを遅まきながら学んだ。少年時代、スケートやワカサギ釣りに興じ、野球のファウルボールは泳いで取りにいった。厳冬の夜明け、お神渡りの氷が割れる音で目が覚めたことも懐かしい。

諏訪湖の魅力を、70代の目で一つひとつ探していきたい。



山田 雄一さん

〒394-0082 岡谷市長地御所 2-1-19

携帯；090-3080-3090 FAX；0266-55-8272

メール；yamada-y6@po32.lcv.ne.jp

元朝日新聞社の運動部長 長野県野球協会理事（広報委員長）他

畑 恭子さん

今年度入会致しました畑恭子と申します。神奈川県川崎市在住、勤務先は横浜市にある環境コンサルタント会社です

諏訪湖には観光客として何度も訪れておりましたが、2016年からは業務として関わっています。私の専門は数値モデルを用いた湖沼生態系の計算で、諏訪湖についてはとくに湖底の貧酸素状況や湖岸のヒシが水質に及ぼす影響などについてモデルを構築しています。昨年度は、間欠泉センターの前に設置した試験区のヒシを時期を変えて刈取りを行い、刈り取量や労力などを調べました。刈り取ったヒシを湖岸にあげるため、肩まで湖水につかりながら作業を行い、そのヒシを肥料にするため生まれて初めて3トンダンプを運転したりと、とても貴重な経験ができました。昨年度の試験区跡の様子は今年度追跡調査を行っています。

地元の方が大切にされている諏訪湖を皆さんの望む姿で後世に伝える活動に少しでも関わられたら幸せです。どうぞよろしくお願い致します。



諏訪湖しゅんせつWGにて

畑 恭子さん

〒216-0033 川崎市宮前区宮崎 6-7-34

携帯；090-9373-4692 FAX；044-862-0054

メール；[k.n.degawa@gmail.com](mailto:k.n.degawa@gmail.com)

勤務先；いであ株式会社

## 理事会報告

第162回 日時：令和6年(2024)4月21日(日)午前10時00分～ 場所：スマートレイク事務所  
出席者：沖野 金子 宮原 長崎(政) 井上 八幡 宮坂(平) 市川 鴨志田 山村 田辺 高木  
北原 正義 (13人)

諏訪湖についてご尽力を頂いた元諏訪湖クラブ理事の北原正義さんが寄ってくれました

- 1) 4月14日に京都宮帯出版社(宮下社長)武田信玄の石棺の調査実施 配付/新聞記事
- 2) 諏訪湖クラブ谷辰夫理事ご逝去 謹んでお悔み申し上げます  
お悔みと諏訪湖クラブニュース39号を遺族に郵送 報告/高木理事
- 3) 諏訪湖クラブ定期総会  
講演；カイコと日本と私たち  
講師；九州大学名誉教授 伴野豊氏(諏訪湖クラブ会員)
- 4) 国交省下水道部配信 下水道ホットインフォメーションに諏訪湖クラブ児童冊子「水の学習  
/水はどこから来てどこに行くのか」が紹介される。 報告/田代理事
- 5) 湖沼水環境保全に関する自治体連携について  
6月27日開催の「下水道の市民科学 情報交換会」に参加 報告/井上祥一郎監事

第163回 日時：令和6年(2024)5月26日(日)午前10時00分～ 場所：スマートレイク事務所  
出席者：沖野 宮原 長崎(政) 高木 八幡 鴨志田 田辺 (7人)

- 1) 第2回諏訪湖トリアスロンボランティア参加 宮坂平馬、高木保夫夫妻、八幡義雄、  
田辺鈴代  
場所；茅野市仲町 9：30～12：10 自転車下りコース 報告/宮坂平馬理事
- 2) 諏訪湖クラブ定期総会 6月2日(日)すわチャオ  
予算関係まとめ；高木 事業関係まとめ；八幡  
富士フィルム・グリーンファンド活動助成金の申請を検討
- 3) 元気づくり支援金正式に承認 冊子4冊作成 総額731,780円 支援金585,000円
- 4) 全国一斉水質調査6月2日(日)沖野、高木、田代、宮原  
20年のデータの書籍化の検討
- 5) 林正敏氏所有の鳥類標本2,500体が国立科学博物館に寄贈 配付/展示会のビラ  
原村八ヶ岳美術館にて展示会 令和6年6月8日(土)～7月7日(日)  
6月22日(土)午後1時30分～笠原里恵信大助教講演  
演題；「剥製とその遺伝子解析が教えてくれること」  
7月4日(木)午後1時30分～林正敏氏講演  
演題；「鳥学を支えた採集者たち・世紀を超えた鳥類標本を語る」
- 6) 信州大学諏訪臨湖実験所一般公開 令和6年7月6日(土)予約制 配付/当日のビラ
- 7) 小松真菜さん トチト(沖縄おこわ)5/29～6/2 9：00～16：00 配付/ビラ

企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局

TEL/FAX 0266-58-0490

E-mail [e-suwa-info@lake.gr.jp](mailto:e-suwa-info@lake.gr.jp)

<https://suwako-club.com/about.html>

諏訪湖クラブニュース

No.40 令和6年(2024年)7月